

北教組津別支会 支会学習会

日時 11月29日(月) 18:00~

(終了予定19:30)

会場 津別中学校視聴覚室



越川橋梁(1973年以前の撮影) 中央部は現在ない。

第一部 地域の語り部に聞く戦争の傷痕 ～旧国鉄線 斜里越川橋梁の史実

○ 講師 網走市 森亮一さん(憲法9条の会所属)

第二次世界大戦終了から60年をすぎました。

わたしたちが住んでいるここ道東の地にも、数多くの悲劇がありました。しかし、それら学校の教科書にはのっていません。当時を知る人々が他界していく中、残念なことに風化しつつあるのです。

今年度の津別での学習会は、当時の史実を残すために活動している語り部の方をお招きしようと考えています。旧国鉄OBで網走にお住まいの森亮一さんは、治療院を営みながら、地域で地道な調査を続けています。今年は終戦の日を前に新聞やNHKテレビで活動が取り上げられました。

今回の学習会では、いろいろ資料も用意していただいています。当日までに、ぜひ、一読をお願いします。



毎日新聞の記事から一部引用

1930年代後半、対ソ連戦への備えから道東、道北の鉄道網整備が急がれた。越川橋梁は38年から始まった旧国鉄根北線の敷設に伴い、39年に着工。「タコ部屋労働」の突貫工事の末に1年余りで完成した。鉄筋を一切使わない構造で、11本の橋脚の間に10の幾何学的アーチを描いた。

だが、軍事支出の増大により、40年12月、同線の敷設工事が中止される。戦後に一部が開通したが、橋は一度も使われることはなかった。軍に統制された工事は工期が短く、全国から集められた労働者が過酷な強制作業を強いられた。斜里町史などによると、真冬の川から砂利を拾ったり、セメントを練る作業はすべて素手で行われたという。犠牲者が多数出たと伝えられ、1年間で少なくとも11人の死亡が確認されている。

戦後、斜里町に住んだ元労働者の一人(その後死亡)は森さんの取材に「人という動物がいるだけで、タコ(労働者)は人間と見なされていなかったのです」と証言している。

第二部 道教委『通報制度』の撤回を目指し、教育労働者の人権と教育の自由を守る津別集会

○2010年5月31日に道教委が強行した本制度について、その内容及び問題点について学習を深めるための集会です。

この『通報制度』を許さず、教育の自由を守りゆたかな教育を実現をめざしましょう。

…… 切り ……

※森さんに聞きたいことがありましたら、11月22日までに津別中分会 中川までご連絡ください